

FIM Asia Road Racing Championship 2015

ROUND4 Chang Int.Circuit , THAILAND

参戦報告書

- エントリー名 : TRICK STAR Racing
- 監督 : 鶴田 竜二
- ライダー/ゼッケン : 山本剛大(#11)
兵藤龍之介(#12)
- 開催日/サーキット : 2015年8月29日(土)~8月30日(日)
/Chang Int Circuit (BURIRAM THAILAND)
- マシン : カワサキNinja250
- 結果 : 山本剛大 レース1: 3位 / レース2: 3位
兵藤龍之介 レース1: 17位 / レース2: 12位

2015アジアロードレースチャンピオンシップ(ARRC)も、此処THAILAND BURIRAM Chang Int Circuitで第4戦を迎え後半戦に入る。TRICK STAR Racingは初めて訪れるサーキットで、マシンのベースセッティングを探し出す所からの走行となる。



【8月29日(土) 公式予選】
Qualify 9:10~9:40
天候:晴れ コース:ドライ

#11 山本剛大 1'58"490 3番手

昨日の練習からマシンセッティングを変更し公式予選をスタートする。予選開始から3周程はマシンの確認を行いながら、他車との位置関係を探りながら走行する。4周目からタイムアタックに入り1分59秒221を記録し、更に5周目にタイムアップし1分58秒490を記録する。その後、一度ピットインし更にマシンセットを変更しセッティングを確認し公式予選を終了する。

#12 兵藤龍之介 2'00"491 16番手

公式予選開始直後から積極的に走行し、2周目に2分00秒491を記録する。3周目も2分00秒台、4周目はクリアラップを得るためにペースダウンし周回する。5周目に再度アタックを開始するがマシンに違和感を感じピットインする。マシンに不調が見つかり予選を16番手で終える。

【8月29日(土) 決勝レース1】

Final 1 14:15～ 10LAP

天候:晴れ コース:ドライ

山本剛大3番手 兵藤龍之介16番手 からのスタート。

#11 山本剛大

スタートを上手く決めたが、1コーナーは6番手で通過。3コーナー進入で5番手に上がり4コーナーでは4番手に上がる。1周目終了時点で3番手で前車との差は約1秒。2周目も3番手で戻ってくるが2番手とギリギリ離される。山本を先頭に3番手争いを5台で争い、後続車がコーナー進入でインを刺そうとしてくるが上手く交わし3番手をキープする。レース後半残り4周になると後続をコンマ5秒ずつ離して行く。最終ラップはさらに引き離して3位でゴールする。

#12 兵藤龍之介

スタート、クラッチミートは上手くいき3コーナーで前車を抜くことが出来た。1周目終了時点で14番手に上がる。2周目には自己ベストタイムを刻み10位で戻ってくる。しかしその後は集団の中での走行で徐々にポジションを落としていく。残り1周を20番手で行っていく。最終ラップの最終コーナーで前車が転倒し17位でゴールする。

【8月30日(日) 決勝レース2】

Final 2 15:05～ 10LAP

天候:晴れ コース:ドライ

#11 山本剛大

スタートはまずまずのスタートだったが、マシンの特性で1コーナーまでにライバルに前に出られて5番手で進入する。1周目終了時点では4番手。2周目にはレースのファーストラップ1分58秒623を記録し3番手に上がる。4周目の3コーナーではトップに躍り出る。ライバル3台との合計4台でトップグループを形成し、毎周順位を目まぐるしく入れ替え、激しいレースを展開していく。レースの中頃から後半までもコントロールラインを2番手もしくは3番手で通過し前車と後車との差はコンマ1～2秒の僅差。最終ラップに入る時には3番手で2番手とマイナス0.8秒差で4番手とはプラス0.2秒差。このままの順位でレース終了なのかと見守る中、最終コーナーでランキングトップの#24アピワット選手が転倒してしまう。その結果4番手で最終コーナーに進入していたが3位でゴールした。アピワット選手は直ぐにマシンを起こし10位でゴールする。ランキングは山本剛大選手がトップになり4ポイント差で2番手にアピワット選手となった。

#12 兵藤龍之介

決勝ヒート2の前に行われたフリー走行で調子が良く、スタートから積極的に前に出て行く。1周目終了時点で11位までポジションアップする。2周目はレース中の自己ベストラップで走行し、3周目途中には5位を争うグループの先頭にたち5番手まで上がる。しかしその後はグループを引き離せず、逆にポジションを徐々に落としてしまう。転倒するライバルも多く自分のベストな走りが出来ずに12位でゴールする。兵藤龍之介選手のランキングは5位。

【ライダー 山本剛大選手 コメント】**予選 3位**

前日のプラクティス3よりファイナルレシオ(ギア比)をかなりロングに施して予選に挑みました。それが上手く作用し予選序盤に1分58秒490を記録し3番手につけ、その後はタイヤを温存するためにピットインして、そのまま3番手で予選を終了しました。

Race1 3位

スタートでマシン特性の違うHONDA CBR勢に前に行かれてしまい、3位に上がるまでにナカリン選手・アピワット選手に離されてしまい、そこからは前車に少しずつ離されていくレース展開になりました。しかしプッシュし続け、何回か後続に仕掛けられましたが、最後には振り切る事ができ単独の3位でチェッカーを受けました。

Race2 3位

レース1同様にスタートでHONDA CBR勢に前に行かれて少し離されてしまいました。しかし2周目にはレースのファーステストラップとなる1分58秒623を記録し、トップグループに追いつきトップ4台での優勝争いに戻ることが出来ました。開幕戦の時のようにライバル3台との戦いになりました。レース中、前に出たり後ろに下がってみたいと試行錯誤していましたが3台を相手に戦うのは難しく、最終ラップには前に少し離されてしまう展開になってしまいました。しかし最終ラップ最終コーナーでランキング争いをしているアピワット選手が転倒したことにより2位になりましたが、一瞬ひるんだ隙に抜かれてしまい結果3位でチェッカーを受けました。

いつも応援ありがとうございます。今回のレースはライバルチームの本拠地でのレースということもありタイ人ライダーが強く、とても難しいレースウィークでした。そしてとても悔しいレースになりました。しかしアクシデントなどもあり終わってみればアピワット選手に4ポイント差、ナカリン選手に17ポイント差をつけてのランキングトップに上がることができました。残り2戦、カタール・タイランドと有りますが、このまま攻める気持ちを忘れずに今のポジションを守り続けることが出来るよう頑張ります。これからも応援よろしくをお願いします。



【ライダー 兵藤龍之介選手 コメント】**予選 16位**

前日のプラクティスの問題も解消され調子が良く4台ぐらいの集団で走っていました。予選開始2周目から自己ベストを更新し、なかなか良かったのですが4周目の最終コーナーでシフトミスをしてしまい、エンジンを壊してしまったため、それまでのタイム計測となってしまいました。結果は16番手となかなか厳しい結果となりました。

Race1 17位

スタートは出だし良く4台ぐらい抜き、前の集団に追いつこうとしたのですが、後ろのライダーに抜かれ追いつくことが出来ませんでした。そこからは集団でスリップストリームを使いあって何度か前に出れる時もあったのですが、直ぐに抜き返されてしまい集団の後ろの方まで落とされてしまい、最終ラップで抜ききれず17位と云う結果になってしまいました。

Race2 5位

朝のフリープラクティスで調子が良く、レース1の時より落ち着いてスタートする事ができました。3周目に5番手まで上がる事が出来、このまま離して行こうと思ったのですが、スリップストリームにつかれていますあまりストレートでマシンが伸びず集団に飲み込まれてしまいました。そこから他車の転倒も多くなかなか前に出る事が出来ずにブレーキング勝負でもあまり前に出る事が出来ずに最終ラップ転倒車両に巻き込まれそうになりコースから出てしまい12位でのゴールとなってしまいました。

このレースで自分の弱いところがハッキリとわかりました。この悔しさは次のカタルで必ず返してみせます。最後に応援してくれたファンの方、チームの方、スポンサー様 本当にありがとうございました。次は必ず表彰台に乗るので、応援よろしくお願いします。



【監督 鶴田竜二 コメント】

前回の鈴鹿戦を独走で2勝を挙げた山本選手ははじめチームは波に乗り今回も連勝を狙っていましたが、ライバルのホームコースではなかなかすんなりとは勝たせてもらえませんでした。

むしろ今までにないくらい相手チームは力を入れてきていて、マシンの速さに驚かされました。

我々の武器はほんの一瞬だけのトップスピードだけでした。それ以外の加速では相手マシンは流石に排気量が大きい為有利で更に速くなっていました。

ブレーキング性能でも車重が5キロも我々より軽い為、進入で抜き去る事は容易ではありませんでした。

しかし山本選手はしっかりコンセントレーションをしており、レース2では3台の相手チームのマシンに囲まれながらもしぶとく良く戦ってくれたと思います。

その結果3位表彰台獲得の末、相手チームのミスもありランキングトップに浮上しました。

一方の兵藤選手は瞬間的な速さはみせる場面はありましたが、終わってみれば集団に飲み込まれてしまい満足いく結果と内容といかなかったことは残念に思います。

しかし明確な課題が見えたのも事実であり、これを克服して次回に挑んでくれることと期待をしております。

チームとしても次回レースがタイトルの行方を大きく左右する大事なレースだと思っておりますので、更に集中し勝利を目指します。

今回もご支援頂いているスポンサー様をはじめ、熱い応援を頂いたファンの皆様、関係者の皆様、チームクルー、現地でサポートして頂いた皆様に感謝致します。

